

4 胸部CT検診の結果

肺がんは現在、多くのがんのなかで男性では死亡原因の第1位、女性では第2位です。

	罹患率(%) (がんにかかる率)		死亡率(%)	
	男性	女性	男性	女性
1位	胃がん (17.6)	乳がん (20.3)	肺がん (23.9)	大腸がん (15.1)
2位	肺がん (15.4)	大腸がん (15.9)	胃がん (13.6)	肺がん (14.0)
3位	大腸がん (15.3)	胃がん (11.1)	大腸がん (12.3)	肝臓がん (11.0)
4位	前立腺がん (14.5)	肺がん (9.7)	肝臓がん (8.4)	胃がん (10.2)

国立がん研究センター 最新がん統計より



胸部レントゲンでは、心臓、骨などの影に肺がんがあっても見つけていくていにくいですが、胸部CTでは見つけられるので、早期発見、早期治療に繋がります！

また、当院の健診用胸部CT検査は健診用にX線量を設定しており、診療用胸部CT検査と比べ被ばく量が大幅に低減されていますので、安心して検査を受けていただけます。



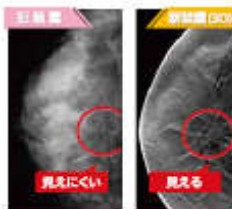
5 TOPICS マンモグラフィ装置も2019年2月に更新しました！

NEW!



以前の装置では、乳腺と乳がんが重なって、乳がんの存在が見えにくかった方でも、新装置では、顕微鏡も向上し3D検査(トモシンセシス)により、正確な診断が可能となりました。当院では乳腺外来や婦人科健診にて、乳腺検査を実施しております。乳癌される方はお気軽にご連絡ください。

不二越病院 ☎076(424)2881



マンモグラフィの画像(乳がん)

NEW!

不二越病院では、**2019年2月にCT装置を更新しました！**



以前の装置と比較し、様々な部分で性能が向上したことで、画質の向上や撮影時間の短縮など、検査を受けられる方にとってより魅力的な装置となりました。

今回は、新しいCT装置についてご紹介します。

1 「CT」ってどんな検査？

CT (computed tomography) / コンピュータ断層撮影

CT装置とは、体の回りを回転しながらX線を照射し、身体を透過したX線量を検出器で測定し、その測定値をコンピュータで計算することで、体を輪切りにしたかのような断面写真を撮影する装置です。

CT装置の特徴は、広範囲を短時間で撮影することができることで、緊急的な脳卒中の検査から、癌患領域の骨の3D画像作成など様々な分野、用途で使用されています。



2 以前のCT装置と何が変わったの？

	以前のCT装置	新しいCT装置
検出器の数*	16列	80列 5層に多列化
撮影時間	約20秒(胸部の場合)	約5秒(胸部の場合) 1/4に短縮
被ばく量	約8.0mSv(胸部の場合)	約2.0mSv(胸部の場合) 最大1/6に低減
品質	<ul style="list-style-type: none"> 体内に金属がある場所では、ベルトや車の部品などの金属が写り込んで写す。 撮影時間が長いので、体動による画像の乱れが発生しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 体内の金属による画像の乱れが少なく、撮影できる範囲が広がる。 装置全体の性能向上により画質が向上し、より正確な画像診断が可能となる。

*検出器から検出されたX線を検出する部分

3 旧CT装置と新CT装置の比較画像

旧装置



新装置

旧装置では、体内に金属が存在している場所では画像が写り込んで、近くの組織などが隠れて見にくく、

*乳腺内に人工骨が入っている部位(肋骨)の画像

新装置では、画像処理の性能が格段に向上し、金属による画像の乱れを大幅に軽減できる。

不二越病院
日より

vol.70

不二越病院の
CT装置が新しくなりました！



不二越病院 放射線科
技師長 水野千加子